

知事と政策連携団体代表者の意見交換 議事概要

1 団体名

(公財) 東京しごと財団

2 実施日時

9月13日(金) 11時37分～11時54分

3 出席者

- ・団体側出席者：笹沼理事長、岩井事務局長、
村西事業推進担当部長(産業労働局)
- ・都側出席者：小池知事、遠藤総務局長、武市財務局長
小林行政改革推進部長

4 議事概要

○小池知事

シニア向けのセミナーや職場体験事業には、どのくらいの人が集まるのか。

○笹沼理事長

昨年の実績では、65歳以上の方が対象の職場体験事業「しごとチャレンジ65」は体験数として134件。そのうち、その体験先に就職された方は64名という実績になっている。

○小池知事

ベビーシッターは、女性の職場として自分の経験を活かせると思うが、状況はいかがか。

○岩井事務局長

今年から実施している。ベビーシッター関係の協会と連携し、協会の方が講師に来ていただき、基本的な保育を説明していただく。また、実際にベビーシッターとして働いている方に講習に来ていただき、苦労している点や子供と触れ合う喜びなどをお話いただいている。

○小池知事

ベビーシッターについては、もっとフォーカスし、区市町村と連携してやってもらいたい。

○武市財務局長

人手不足の状況が続いていると思うが、正規雇用につなげていくような取組はしているのか。

○笹沼理事長

非正規対策はヤングとミドルの年齢層に分けて、それぞれ大きく3つのレベルに分けて就職に結びつける講座を行っている。

何日かの講座を経て、合同面接会を行うコース。企業内実習を試みるコース。長期の時間をとり、グループワークで仕事の在り方やマナーから学んでいくコース。

○岩井事務局長

コースによっては8割程度就職できており、正社員として就職できた方は、プログラム全体で800人は超えている。

○小池知事

就職氷河期世代の人で、現在働いていない人を引っ張り出すための方策は何かあるか。

○笹沼理事長

今ご説明したミドルの中の最後のコースに、ちょうど氷河期世代と年齢層が重なることもあり、そこを卒業して正規社員になっている方はいる。

ただ、(現在の事業の対象は)氷河期の方だけではないため、対象者を広げたり、中身を変えたりしながら対応していきたいと考えている。

○遠藤総務局長

しごと財団の事業は雇用政策としてやる必要がある一方で、都の政策との連動性に少しフォーカスし、東京都の財団らしさを出していくといいかと思う。

○笹沼理事長

都施策との連携は常に意識している。

しごと財団がやれる仕事は提案し、都がしごと財団のノウハウを活用した方がいいと思っていただけるのであれば、それはしっかりと受け止めてやっていきたい。